

事務連絡
平成 25 年 8 月 12 日

各 { 都道府県
保健所設置市
特別区 } 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

カメ等のハ虫類を原因とするサルモネラ症に係る注意喚起について

今般、米国より、2011 年 5 月以降、主に乳児を含む子どもがカメに触ったことを原因とするサルモネラ症の集団発生が、米国内で広域的に繰り返し発生している旨の情報提供が世界保健機関（WHO）を通じてありました（集団発生の概要は、参考資料 1 のとおり）。

カメ等のハ虫類については、国内外を問わず、多くのもの（50～90%）がサルモネラ属菌を保有しており、人がこれらの動物との接触を通じてサルモネラに感染すると、胃腸炎症状を起こしたり、まれに菌血症や髄膜炎等の重篤な症状を引き起こす場合があることが知られています。

貴職におかれては、従来より、「ミドリガメ等のハ虫類を原因とするサルモネラ症発生事例に係る注意喚起について」（平成 17 年 12 月 22 日付け健感発第 1222002 号）等に基づき、家庭におけるハ虫類の衛生的な取り扱い方や感染予防の方法等、正しい知識の普及や注意喚起に御協力いただいているところですが、サルモネラ症は、特に新生児や乳児、高齢者等、免疫機能の低い人では重症化しやすいことから、引き続き、家庭でカメ等のハ虫類を飼育する者や動物取扱業者等、関係者に対して、本件に関する周知及び注意喚起をよろしくお願いします。

参考資料 1：小ガメを原因とする複数の州にまたがるサルモネラ症の集団発生について
（2013 年 5 月 24 日付け 米国 CDC の公表情報に基づく概要）

参考資料 2：ミドリガメ等のハ虫類の取扱い Q & A

参考資料 3：「動物由来感染症ハンドブック 2013（抄）」

（全文：http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou18/pdf/handbook_2013.pdf）



ミドリガメ等のハ虫類の取扱いQ&A

平成 17 年に発生した、ミドリガメを原因とする小児における重症なサルモネラ症事例を踏まえ、ミドリガメをはじめとするハ虫類の衛生的な取扱いなどに関するQ&Aを作成しました。

ミドリガメなどのハ虫類に触れたあとは必ず十分な手洗いをしましょう。

(平成 17 年 12 月 22 日作成、平成 25 年 8 月 12 日更新)

1. サルモネラ症について

問1 サルモネラ症とはどのような病気ですか？

答 サルモネラを原因菌とする感染症で、通常、サルモネラに汚染された食品を食べることにより胃腸炎症状の食中毒を引き起こします。また、ハ虫類などの動物との接触を通じて感染し発症する場合があります。

問2 ハ虫類を原因とするサルモネラ症は、どのくらい発生していますか？

答 日本においては、ハ虫類が原因と判明したサルモネラ症の事例がほぼ毎年発生しています。カメ類を感染源とするものがほとんどであり、いずれも子ども又は高齢者が感染しています。

また、海外においては、カメ、イグアナ、ヘビを原因として、多数の感染事例が報告されており、胃腸炎症状に限らず、菌血症、敗血症、髄膜炎、これらに伴う死亡事例があります。

我が国におけるハ虫類を感染源とするサルモネラ症の事例

| 血清型 | 原因爬虫類 | 患者の年齢、性別 | 症状 | 発生年 | 発生場所 |
|---------------------|---------|-----------------|------------|------|------|
| S. Poona | ケツメリクガメ | 7 ヶ月男児 | 急性胃腸炎、敗血症 | 2006 | 新潟県 |
| S. Schleissheim | ミドリガメ | 6 歳男児 | 下痢、嘔吐、発熱 | 2005 | 長崎県 |
| S. Braenderup | ミドリガメ | 1 歳 3 ヶ月女児 | 髄膜炎 | 2005 | 千葉県 |
| S. Paratyphi B | ミドリガメ | 6 歳 2 ヶ月女児 | 急性胃腸炎、敗血症 | 2005 | 千葉県 |
| S. IV (45:g, z51:-) | イグアナ | 生後 27 日男児 | 腸炎 | 2004 | 千葉県 |
| S. Saintpaul | カメ | 2 ヶ月男児 3 歳女児 | 胃腸炎 胃腸炎 | 2004 | 秋田県 |
| Salmonella (O4) | ミドリガメ | 62 歳女性 | 敗血性ショック | 2003 | 宮城県 |

(東京農工大学 林谷秀樹准教授調べより抜粋。出典：雑誌「小児科」2013 年 1 月号)

問3 ミドリガメなどのハ虫類は、どのくらいサルモネラを持っていますか？

答 国内外の文献によると、カメ等のハ虫類の糞便中のサルモネラを検査したところ、保菌率が 50~90%であったと報告されています。

2. サルモネラのハ虫類からヒトへの感染経路や症状、感染した場合の治療について

問4 ヒトへはどのようにして感染しますか？

答 飼育中のハ虫類を触った又は飼育箱を洗浄した手指などにサルモネラが付着し、これが口に入ることにより感染します。特に子どもは無意識に手を口に持って行くことが多いので注意が必要です。

問5 どのような症状が出ますか？

答 サルモネラによる症状は多岐にわたりますが、通常見られるのは急性胃腸炎です。通常は8～48時間の潜伏期間を経て発症します。また、まれに、小児では意識障害、けいれん及び菌血症、高齢者では急性脱水症状及び菌血症により重症化します。

問6 治療方法は？

答 胃腸炎症状の場合、安易に下痢止めなどの市販薬を使用することは避け、医療機関を受診し、医師の指示に従ってください。また、医師に対して、ハ虫類に接触したこと又は飼育していることを教えてください。医療機関においては、特に症状が重い場合には抗菌薬（ニューキノロン系あるいは第3世代セファロスポリン系薬）による除菌がなされます。

3. ミドリガメなどのハ虫類の取扱い方法について

問7 ハ虫類を購入する際はどのようなことに注意したらよいですか？

答 ミドリガメをはじめとするハ虫類は、サルモネラに感染していても症状を示さないために外見上は感染の有無が分かりません。子供や高齢者、免疫機能が低下した方がいる家庭等では、ハ虫類を飼育するのは控えるべきです。購入する場合は、ハ虫類の多くはサルモネラを保有していることを念頭に、特に感染する危険性の高い方がいる家庭等では、飼育方法を十分検討してください。

なお、米国においては、サルモネラによる感染症を防止するため、1975年から4インチ（約10cm）以下のミドリガメを含むカメの販売は禁止されています。

問8 ミドリガメなどのハ虫類はどのくらい輸入されていますか？

答 ペットショップ等で販売されているミドリガメ等のハ虫類の多くは、海外から輸入されたものです。我が国では毎年30万頭程度のハ虫類が輸入されており、輸入されるカメの多くは米国産となっています。

カメなどハ虫類の輸入状況
(2010～2013)

| カメ目 | 2010年 | | | 2011年 | | | 2012年 | | | 2013年(1-6月) | | |
|---------|---------|------|---|---------|------|---|---------|------|---|-------------|------|---|
| | 29カ国 | 数量 | % | 26カ国 | 数量 | % | 26カ国 | 数量 | % | 22カ国 | 数量 | % |
| | 344,358 | | | 282,865 | | | 217,725 | | | 98,417 | | |
| 上位5カ国 | | | | | | | | | | | | |
| 米国 | 252,504 | 73.3 | | 181,071 | 64.0 | | 122,021 | 56.0 | | 43,608 | 44.3 | |
| 中国 | 68,598 | 19.9 | | 80,565 | 28.5 | | 72,655 | 33.4 | | 34,596 | 35.2 | |
| ヨルダン | 11,885 | 3.5 | | 8,506 | 3.0 | | 7,400 | 3.4 | | 9,600 | 9.8 | |
| ウズベキスタン | 2,300 | 0.7 | | 4,161 | 1.5 | | 2,722 | 1.3 | | 2,251 | 2.3 | |
| スロベニア | 1,840 | 0.5 | | 1,540 | 0.5 | | 2,180 | 1.0 | | 1,506 | 1.5 | |
| その他のハ虫類 | 25,443 | | | 38,971 | | | 48,583 | | | 38,686 | | |
| 合計 | 369,801 | | | 321,836 | | | 266,308 | | | 137,103 | | |

※ 財務省貿易統計より(申告額20万円以上)

問9 飼育時の注意事項は？

答 カメなどのハ虫類の多くはサルモネラに感染しており、サルモネラを含む糞便を排泄していることから、飼育水などには多量のサルモネラが存在する可能性があります。これらは人のサルモネラ症の感染源となりますので、飼育水を交換する場合は、食品や食器を扱う流し台などを避け、排水により周囲が汚染されないよう注意することが必要です。また、飼育中のハ虫類を飼育槽から出して自由に徘徊させたり、台所等の食品を扱う場所に近づけたりしないように注意することも重要です。

問10 ハ虫類を触った後はどうしたらよいですか？

答 カメなどのハ虫類をはじめ、動物を触った後には必ず手指を石けんを用い十分に洗浄してください。

問11 飼育しているミドリガメからサルモネラを除菌することはできないのですか？

答 サルモネラに感染したカメに抗生物質を投与して除菌を試みた実験によると、一時的にサルモネラの排出が停止したかのように見えても完全にはカメの体内から除菌することができなかったと報告されています。カメからサルモネラを除菌することはできないので動物の飼育環境を衛生的に保つことを心がけてください。

問12 病気が怖いので、飼育しているハ虫類を逃がしたいのですが？

答 生き物を飼い始めた場合、最後まで飼いつける責任を持たなければなりません。どうしてもできない場合は、責任を持って、きちんと飼える人へ譲渡してください。場合によっては安楽殺処分しなければならないことも考慮すべきです。このような事態に陥らないためにも、動物を飼い始めるときはその動物の寿命、成長した時の大きさ、性格や生態、人に感染する病気の種類とその予防方法などを十分調べた上で判断してください。

なお、ハ虫類の中には外来生物法や動物愛護管理法によって、飼養することや放すことなどに対して規制がある特定外来生物や特定動物に該当するものがあります。これらを飼養する場合は、環境省や地方公共団体の許可を受ける必要があります。詳細は、環境省のホームページ (<http://www.env.go.jp/>) をご覧ください。